

2023 年 6 月 26 日

左上大静脈遺残を有する心房細動に対して高周波

カテーテルアブレーションを受けられた患者様または御家族様

当院では、左上大静脈遺残を有する心房細動に対するカテーテルアブレーションにかかわる臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた記録をもとに行われるものですが、この案内をお読みになり自身がこの研究の対象にあたると思われる方の中で、ご質問がある場合、またはこの研究に「自身の情報を使ってほしくない」とお思いになりましたら、遠慮なく下記の担当者までご連絡ください。

【対象となる患者様】

平成 17 年（2005 年）1 月 1 日から令和 1 年（2019 年）12 月 31 日に左上大静脈遺残（PLSVC）を有する薬剤抵抗性心房細動に対してカテーテルアブレーション治療を受けられた患者様。

【研究課題名】

心房細動カテーテルアブレーションにおける左上大静脈遺残からの心房細動不整脈起源の誘発と局在化についての検討

【研究責任者】

群馬県立心臓血管センター 循環器内科第二部長 中村紘規

【研究の目的】

いくつかの研究により、肺静脈が心房細動を引き起こす心房性期外収縮の主要な発生部位であることが既に示されています。肺静脈隔離術は心房細動の基本的なアブレーション手技として確立されていますが、肺静脈隔離術後の心房細動再発には肺静脈以外から発生する心房性期外収縮が重要な役割を担っています。左上大静脈遺残は肺静脈以外の不整脈発生部位になりうるということが報告されており、一般集団における左上大静脈遺残の有病率は 0.5%と報告されています。左上大静脈遺残を有する患者様の心房細動に対するカテーテルアブレーションにおいて、左上大静脈遺残の電氣的隔離の有効性を示す報告がありますが、左上大静脈遺残を有する全ての患者様で左上大静脈遺残の電氣的隔離が

必要か否か十分解明されていません。一般に、肺静脈以外からの心房性期外収縮は、心房細動に対する電氣的除細動や薬剤投与によりその発生部位をみつけることができますが、左上大静脈遺残から発生する心房細動のきっかけとなる心房性期外収縮の誘発検査とその結果に基づく治療方法について詳細に検討した報告はありません。この研究では、左上大静脈遺残から発生する心房細動の誘発検査および左上大静脈遺残の電氣的隔離の有効性に関する多施設共同研究です。

【利用するカルテ情報、資料】

年齢、性別、身長、体重、採血結果、心電図、超音波検査、CT 検査、MRI 検査の結果とカテーテルアブレーションの術中データを使用します。

【研究期間】

令和 5 年（2023 年）6 月 26 日 から令和 5 年（2023 年）8 月 31 日

【個人情報の取り扱い】

登録されたデータには、お名前、住所などの個人を特定できる情報は削除し、新たに付けた番号にもとづいて解析を行います。研究の結果を学会や学術雑誌に公表する場合は、個人が特定できないような形で使用いたします。

【情報の保管場所】

患者様に関するデータはこの研究の代表施設である獨協医科大学附属病院 心臓・血管内科/循環器内科の医局で適切に保管されます。

【研究の実施体制】

この研究は、他の施設と共同で実施されます。研究体制は以下のとおりです。

研究代表者：

獨協医科大学病院 心臓・血管内科/循環器内科 学内講師 南健太郎

研究分担者：

獨協医科大学病院 心臓・血管内科/循環器内科

中島敏明、増山大樹、齋藤郁太、北川善之

共同研究機関・研究責任者：

群馬県立心臓血管センター 循環器内科 中村紘規

Na Homolce Hospital（チェコ共和国） Department of Cardiology

Petr Neuzil

【研究の資金源ならびに利益相反】

この研究は獨協医科大学 心臓・血管内科/循環器内科講座研究費によって行われます。研究者はこの研究に関係する企業等から個人的及び大学組織的な利益を得ておらず、開示すべき利益相反はありません。

【問い合わせ先】

群馬県立心臓血管センター 循環器内科
担当医師 中村紘規 電話 027-269-7455（代表）